

# エコミュージアムがつくる磁場効果

コロナ禍のこの時期、自宅に  
いる時間が長い。押入れから期  
限の切れたパスポートが出てき  
た。全部で5冊。他に国際運転  
免許証も。貼られている顔写真  
の変容には驚く。が、スタンブ  
からは、行き先々の記憶が蘇る。  
仕事での会議や視察、あるいは  
個人旅行の折に、博物館や美術  
館をよく訪問した。海外でも地  
方には小さなローカル・ミュー  
ジウムがある。フオークライフ・  
ミュージアムやオープンエア・  
ミュージアムなど。

## 「まちがまるごと」 ミュージアム

日本でも各地に郷土資料館や  
地域博物館があり、地方の歴史  
的な資料の収集・整理・展示・  
保存などが行われている。博物  
館は歴史的資料を対象とするば  
かりではなく、現在の暮らしや  
その背景を示してくれる現代産  
業科学館や現代美術館などもあ  
る。ほかに、地域に密着し、現  
在の地域の生き様を対象とする  
ものに、「まちがまるごと」ミュー  
ジウムもある。これは、「エコ  
ミュージアム」の概念に基づ

が語源である。それは生圏(生  
活圏)を意味し、身近では我が  
家、少し広げると故郷や地元  
さらに広くとらえれば地球が対  
象となる。

博物館の学芸員のように、地域  
資源について理解する、来訪者  
に説明・案内する、さらに保存・  
整備に努めるという、気概を持  
つことである。

## 「我が家版」 エコの勧め

### エコの勧め

筆者の体験したイギリスの  
粉ひき風車の保存・展示では、  
伝統的な地域資源を守るNPO  
などが組織され、週末や夏休み  
には、案内やワーク  
ショップを開催したり  
している。個人所有の  
風車でも、オーナーが  
快く案内してくれた。  
エコミュージアムの一  
つである。

(Herne windmill)

それは地域資源の対  
象を守るためという目  
的観が前提となってい  
るように思われる。粉  
ひき風車として現在は  
使われていなくとも、  
風力発電として風車が  
生まれ変わる時代にお  
ける。

次も地域を対象としたエコの  
例である。2018年に、明治  
10年に日本を訪ね『日本奥地紀  
行』を著したイギリス人旅行家、  
イザベラ・バードの来訪140  
年を記念する催しが山形県で行  
われた。  
彼女は、山形県置賜地方を訪

いて、風車を受けとめる「社会  
受容性」を広める役割もある。  
エコミュージアムは、観光と  
いう意味でも新基軸となる。地  
域住民が、地域に誇りと愛着を  
持つ切っ掛けとなり、人に見せ  
られるように地域を整備するこ  
とは、おもてなしにつながる。  
最近、自家庭園を開放する「オー  
プンガーデン」が人気であるが、  
エコの「我が家」版といえる。  
エコを広げた取り組みで、筆  
者は「房総横断鉄道沿線のエコ  
ミュージアム環境整備」という  
国土交通省の補助事業(200  
8&09年を行ったことがある。  
その活動では、地元の郷土博物  
館の学芸員やNPOとともに、  
城下町(大多喜町)や沿線の寺社  
のほか、自然景観やアクセス環  
境の調査を行い、エコミュージ  
アムを体験するツアーを実施し  
た。

地元の歴史のほか、現状と將  
来の可能性について、地元をエ  
コと捉えることは、地元への誇  
りや愛着を生み、地元力発見に  
つながり、新たな成長の原動力  
となる。エコミュージアムは、  
地元内外の人を引き寄せる磁場  
となるだろう。

1950年山形生まれ。  
東京都立大院卒。元千葉大  
大学院工学研究科准教授  
(金属疲労専攻)。金属疲労  
の研究のほか、他分野の  
テーマの研究開発に努める  
とともに日本各地の地域お  
こし活動に従事する。ロー  
カル鉄道と地元の酒蔵のコ  
ラボで地域再生を図る地酒  
「鐵の道」の製造・販売を  
企画、すでに10件を超える  
銘柄を送り出している。一  
般社団法人「洗楓座」代表。  
「全国ふるさと大使連絡会  
議」理事

# 地元力発見!

③

シー(ecology)  
のエコ(eco-)  
であり、オイコ  
ス(oikos)と  
いうギリシア語

佐藤建吉 「洗楓座」代表



地域博物館としての粉ひき風車